# 福井県立美術館の機能強化に関する
# 県民意見聴取の結果（速報値）について

【本資料の位置づけ】

・本資料は、「福井県立美術館の機能強化に関する基本計画」の策定に活用するための意見聴取結果の速報値です。今後の詳細分析により、内容が変更される可能性があります。詳細分析後の数値および結果のまとめ資料は、本年度末に公表予定です。
・児童生徒対象の調査、貸館・実技研修棟利用者対象の調査は現在集計中であり、本資料には含まれておりません。

## ◆福井県立美術館の機能強化に関するアンケート調査 調査概要

| | |
|---|---|
| **調査目的** | 福井県立美術館の機能強化に向け、一般県民や教育関係者、有識者などから広く意見を聴取し、基本計画策定の基礎資料とする。 |
| **調査手法** | 【定量調査】① 質問紙によるアンケート調査（紙）　② WEB アンケート調査<br><br>【定性調査】③ 有識者・関係者への個別インタビュー調査 |
| **調査対象** | 【定量調査】① 一般県民　② 教育関係者（小中高、支援学校などの教員）<br>③ 児童・生徒　④ 講座受講者　⑤ 貸館利用者<br><br>【定性調査】⑥ 美術・文化、教育、メディア、まちづくり等の有識者・関係者 |
| **サンプル数** | 総計約 1,800 件超<br><br>【定量調査】<br>① 一般県民：560 件（紙：341 件、WEB：219 件）<br>② 教育関係者：625 件<br>③ 児童・生徒：551 件（集計中）<br>④ 講座受講者：44 件（集計中）　⑤ 貸館利用者：12 件（集計中）<br><br>【定性調査】⑥ 有識者・関係者：10 グループ（18 名） |
| **実査期間** | 2025 年 7 月 19 日～10 月 20 日（約 3 カ月間） |
| **分析対象** | 本報告では、速報として以下の調査結果について分析・報告する。<br><br>・一般県民アンケート、・教育関係者アンケート<br>・定性インタビュー |

# 意見概要

福井県立美術館の機能強化に関する基本計画は、県民、教育関係者、そして専門的知見を持つ有識者への広範な意見聴取（定量アンケート・定性インタビュー）を通じて得られた多様な声を反映しながら策定が進められている。本資料では、「基本計画 骨子案」における「機能強化の方向性」の 3 つの柱と、その根拠となった調査結果との対応関係を明らかにする。

## 本県美術文化の継承と、質の高い展示・収集・保存

機能強化の方向性①で示された「本県美術文化の継承と、質の高い展示・収集・保存」は、美術館の根幹をなす役割であり、調査においてもその重要性を支持する声が多数寄せられた。特に、福井ゆかりの作品を常設展示すること、そして人々を魅了する質の高い企画展を開催することへの強い期待が示されている。

**◆福井ゆかりの作品を核とした「常設展」への期待**

福井の美術文化を継承する上で、その中核となるコレクションをいつでも鑑賞できる「常設展」の設置は、多くの県民が望む声である。これは、自分たちの地域の文化への誇りと愛着の表れと言える。

**【一般県民】** 新しく加えてほしい機能として「福井の美術が見られる常設展示室」を求める声が 134 件寄せられた。また、継続してほしい点として「福井ゆかりの作家紹介・展示」も第 3 位の支持を得ている。

**【定性インタビュー】** 有識者からは「地元関連の作家を大切にし、福井ゆかりの日本画や、現代作家の展示コーナーを常設で設けるべき」という具体的な提案があり、美術館が地域の美術史を語る上で果たすべき役割が強調された。

**◆人々を魅了する「質の高い企画展」への強い支持**

県民が美術館に足を運ぶ最大の動機の一つが、国内外の優れた作品に触れられる特別企画展である。この期待に応え続けることが、美術館の魅力を維持・向上させる上で不可欠である。

**【一般県民】** 継続して大切にしてほしいポイントとして、「著名な作家や作品の展示（特別企画展）」が 61%と圧倒的多数を占め、企画展への強い支持が明確に示された。

**【定性インタビュー】** 「美術館として『常設展』と『企画展』で外に発信すべき」との意見があり、常設展と企画展が美術館の魅力を発信する両輪であることが確認された。

## アートを介した創造力豊かな人材の育成

「機能強化の方向性②」で掲げられた「アートを介した創造力豊かな人材の育成」は、特に教育関係者から強く求められている役割である。アンケートからは、美術館が単なる鑑賞の場に留まらず、子どもたちの感性や創造性を育む「学びの場」となることへの熱い期待が伝わってくる。

**◆「体験・探求の場」としての美術館への進化**

教育現場は、子どもたちが受け身で鑑賞するだけでなく、主体的にアートに関わり、探求できるプログラムを強く求めている。機能強化においては、この「体験」の要素が極めて重要になる。

**【教育関係者】** ハード面で最も多く寄せられた要望が「制作・体験ができる部屋」で、実に 431 件（69.0%）に上った。また美術館に期待する役割として「児童・生徒の感性・創造性の育成」（536 件、85.8%）、「探求学習の場の提供」（259 件）が上位を占め、体験を通じた学びへのニーズの高さが浮き彫りになった。

**【定性インタビュー】** 「学校で訪問したときに、作品鑑賞会や作品制作のワークショップができるとよい」という現場の声や、「ワークショップができるクリエイティブゾーンをつくる」といった具体的な施設提案があり、骨子案に反映された。

**◆若手アーティストの育成と多様な表現の場の創出**

未来の文化を担う若者を育てることも美術館の重要な使命である。若者がアートに親しみ、自ら表現する場を提供することへの期待が示された。

**【一般県民】** 美術館に期待する役割として「子どもや若者がアートを好きになる」が 231 件と多くの支持を集めた。

**【定性インタビュー】** 「若手の作家を育てるべき。特徴として『日本人画家の登竜門』を目指しては」といった先進的な提案や、「障がい者、子どもなど幅広い作家を対象にし多様性を持たせるべき」といったインクルーシブな視点からの意見が寄せられた。

## 誰もがアートを身近に感じ、一緒に美術館をはぐくむ機会の創出

「機能強化の方向性③」の「誰もがアートを身近に感じ、一緒に美術館をはぐくむ機会の創出」は、これからの美術館が目指すべき最も重要な姿といえる。調査からは、県民が展覧会を見るためだけでなく、日常的に訪れ、憩い、交流できる「開かれた場所」を求めていることが明らかになった。

**◆誰もが気軽に立ち寄れる「居場所」としての機能**

「美術館は敷居が高い」というイメージを払拭し、展覧会を見なくても誰もが気軽に立ち寄り、思い思いの時間を過ごせる空間への渇望が、あらゆる調査から示されている。

**【一般県民】** 新機能として「開放的なカフェ」（185 件）、「無料ゾーン・休憩スペース」（167 件）が強く求められている。また、現状の改善要望として「休憩スペースの不足」が 247 件と最多であり、切実なニーズであることが分かる。

**【教育関係者】** 学校単位での利用において「鑑賞等の休憩スペースの確保」が 345 件と、高い要望とあっている。

**【定性インタビュー】** 「サードプレイス、第 3 の居場所のような美術館」「もう少し敷居を低くして、誰でも来やすいように」といったキーワードが繰り返し語られ、美術館が県民の日常に溶け込む「コミュニケーションの場所」となることへの期待が示された。

**◆利用しやすさの向上による物理的・心理的障壁の除去**

教育関係者の回答の８割が学校活動で県立美術館を利用したことがないと答えるなど、特に学校利用において、距離や交通費が大きな障壁となっている実態が明らかになった。これらの課題に具体的に応えることが、利用促進の鍵となる。

**【教育関係者】** 学校利用がない理由として「遠い」（269 件）、「移動手段・交通費」（166 件）が上位を占め、運営面への要望として何らかの支援等を求める声が半数を超えた。

**【一般県民】** 来館者の多くが自家用車を利用しており（426 件）、「駐車場の不足」（94 件）が改善要望として挙げられている。

**◆新技術の活用と積極的な情報発信**

デジタル技術の活用は、新たな鑑賞体験を生み出すと同時に、地理的な制約を超える可能性を秘めている。また、美術館の魅力を広く伝えるための情報発信の強化も重要な課題である。

**【教育関係者】** ソフト面への要望として「VR やプロジェクションマッピングなど先端映像・デジタル技術を活用した展示」が 281 件と多くの支援を集めた。

**【一般県民】** WEB アンケート回答の 8%は来館経験がなく、その理由として「情報発信が少なく感じた」が多く挙げられている。より積極的で多角的な情報発信が求められていることが分かる。

**【定性インタビュー】** 「デジタル化した美術資料による出前授業、オンライン解説など、新技術の活用」が提案され、アウトリーチ活動の可能性が示唆された。

# 【一般県民対象】福井県立美術館の機能強化に関する

# アンケート調査結果の概要 － Summary

〈対象者プロフィール概要〉

**【来館経験がある方（Q-a 系列）】**
回答者の年代で最も多かったのは「50 代」22%であり、次いで「40 代」16%、「60 代」16%となっている。回答者の職業で最も多かったのは「会社員・公務員」40%であり、次いで「学生」17%、「パート・アルバイト」12%となっている。回答者の 45%は「福井市」に居住しており、次いで「坂井市」10%となっている。回答者全体の約 9 割が福井県内に居住していた。

**【来館経験がない方（Q-b 系列）】**
回答者の居住地は来館経験者とは異なる地域分布を示しており、嶺南地域への周知が課題であることが示唆されている。

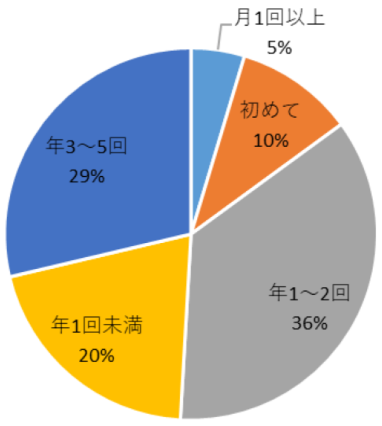
〈調査結果概要〉

**【福井県立美術館への来館状況】**

・福井県立美術館への来館経験は、「ある」という回答が 92%を占めており、県民にとって馴染みのある施設であることがうかがえる（有効回答数：290 件）※本設問は来館者以外への WEB アンケートによるもの。他の設問は来館者にアンケートを実施しているため、有効回答数が異なる。

・来館頻度については、「年 1～2 回」という回答が 36%と最も多く、次いで「年 3～5 回」29%となっており、年に複数回訪れるリピーターが多いことが分かる（有効回答数：495 件）

Q14-a 来館頻度をお聞かせください。（1つ）
有効回答数：495件

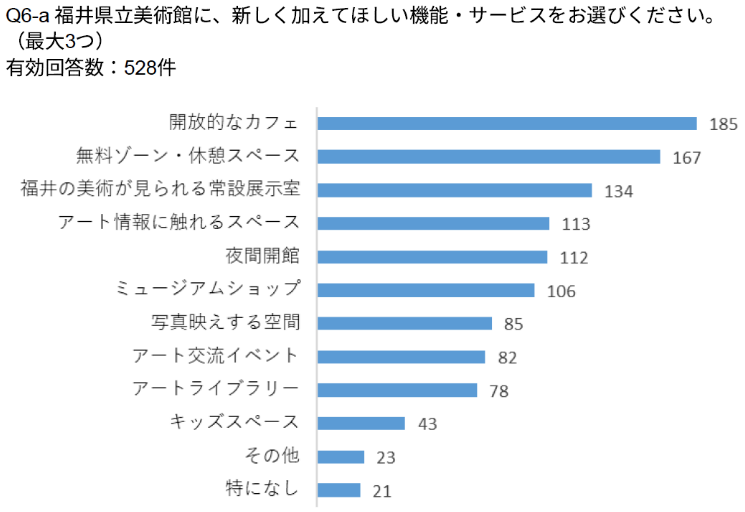


・来館時の同行者については、「ご家族」という回答が 291 件と最も多く、次いで「なし（お一人）」178 件となっており、家族連れでの来館が多い一方で、一人で訪れる層も一定数存在することが示されている（有効回答数：497 件）

**【県立美術館への期待】**

・継続して大切にしてほしいポイントとして、「著名な作家や作品の展示（特別企画展）」という回答が 61%と最も多く、特別展の充実への期待が高いことが分かる（有効回答数：525 件）

・新しく加えてほしい機能・サービスとして、「開放的なカフェ」185 件、「無料ゾーン・休憩スペース」167 件が上位を占めており、作品鑑賞以外の目的で滞在できる空間への強いニーズが示唆されている（有効回答数：528 件）

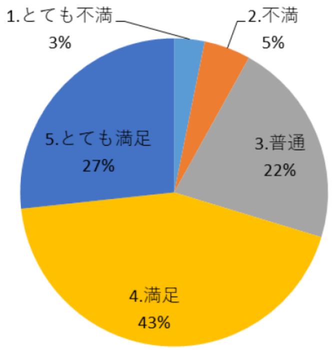



・福井の文化や暮らしにどのように役立つと嬉しいかについて、「心や生活を豊かにする」258 件が最も多く、次いで「子どもや若者がアートを好きになる」231 件となっており、美術館に対して個人の心の豊かさや次世代への文化継承といった役割を期待していることがうかがえる（有効回答数：493 件）

**【福井県立美術館の現状について】**

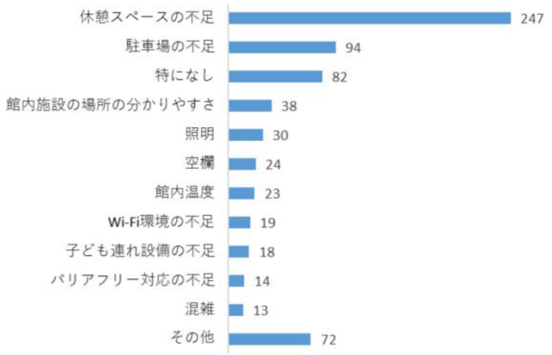
・現状の福井県立美術館に対して、「展覧会の内容」については「とても満足」27%、「満足」43%と、合計 70%が満足していると回答している一方で、「館内の過ごしやすさ」については「とても満足」23%、「満足」29%と、合計 52%にとどまっており、満足度を向上させる取り組みが今後の課題であると言える（有効回答数：532 件、528 件）

Q3-1 福井県立美術館の「展覧会の内容」について、満足度を5段階でお答えください
有効回答数：532件




・改善が必要な点として、「休憩スペースの不足」247 件が最も多く、次いで「駐車場の不足」94 件となっており、ハード面での改善要望が明確に示されている（有効回答数：523 件）

Q4 福井県立美術館について、改善が必要だと感じる点があればお選びください。（最大3つ）
有効回答数：523件




・美術館を食べ物に例える質問（自由記述）には 459 件の回答が寄せられた。このうち、「無し」や無記入を除いた有効な回答は約 286 件であり、多いものから挙げると、そば（10 件）、羽二重餅（9 件）、ごはん（9 件）、パフェ（8 件）などがあるが、全 195 種類もの多様な食べ物が挙げられており、県民が県立美術館に対して抱いているイメージの多様さを示す結果となった。

**【来館経験がない方（Q-b 系列）】**

・来館したことがない理由として、「情報発信が少なく感じた」11 件、「これまで行くきっかけがなかった」10 件が上位を占めており、情報発信の強化や来館のきっかけづくりが課題であることが示されている（有効回答数：24 件）

# 【教育関係者対象】福井県立美術館の機能強化に関する

# アンケート調査結果の概要－ Summary

福井県内の教育関係者 625 名を対象としたアンケート調査からは、美術館の学校利用における大きな課題と、福井県立美術館の機能強化への強い期待が明確に浮かび上がった。回答者の約 8 割が学校活動で美術館を利用したことがなく、その主な理由として「距離」「交通費」「時間の制約」といった物理的・時間的・経済的な障壁が挙げられている。この結果は、美術館が学校教育の現場から遠い存在になっている現状を強く示唆している。

5. 学校での教育活動内（授業・学校行事・部活動など全ての活動）において、県立美術館に児童・生徒と訪れた頻度を選択ください

・一方で、リニューアルに対する要望は具体的かつ多岐にわたる。ハード面では「制作・体験ができる部屋」（431 件、69.0%）や「鑑賞等の休憩スペースの確保」（345 件、55.2%）、

・ソフト面では「触る・聞くなど多様な鑑賞方法」（367 件、58.7%）や「VR やプロジェクションマッピングなど先端映像・デジタル技術を活用した展示」（281 件、45.0%）

・運営面では「何らかの支援等」（観覧料 342 件、交通費 275 件）が強く求められている。これらの声は、美術館が単なる作品鑑賞の場に留まらず、児童・生徒が主体的に学び、創造性を育むための「探求学習の場」となることへの強い期待の表れと言える。

・特に、「児童・生徒の感性・創造性の育成」が美術館の最も重要な役割として 536 件（85.8%）の回答者に支持されており、リニューアルにおいては、この中核的な期待に応えることが成功の鍵を握ると考えられる。

# 【定性調査】福井県立美術館の機能強化に関する

# インタビュー調査結果の概要－ Summary

「福井県立美術館の機能強化に関する基本計画」策定に向けて、美術・文化・教育・地域づくりの各分野の有識者 10 グループ（12 名）に対して定性調査としてのインタビューを実施した。インタビューからは、「開かれた美術館」「居場所としての機能」「人材育成と教育普及」「地域文化の継承と発信」「現代アートの導入」「運営体制の強化」といった多様な視点から、機能強化の方向性に関する重要な提言が得られた。

・特に多く聞かれたのが、「開かれた美術館」「居場所としての機能」への期待である。単に作品を鑑賞するだけでなく、美術館を「サードプレイス」「心の病院」「コミュニケーションの場」として位置づけ、人々が集い交流する場となることが求められた。

・また「教育普及活動の充実」も重要なテーマとして挙げられ、特に子どもや若者がアートに触れる機会の創出、学校教育との連携強化が不可欠であるとの認識が示された。

・福井の美術史における「北荘・北美」「小コレクター運動」といった独自の現代アート運動の未来への継承、「常設展示室」の設置による福井のアイデンティティの確立、現代アートの導入による多様性の尊重、地域の作家を支援する仕組みの必要性も強調された。

・美術館施設の根幹である収蔵庫の拡充のほか、展示や保存へのデジタル技術の活用、教育普及活動の際の専門人材の配置や拡充などといった具体的な課題も明確になった。

・こうした有識者へのインタビューで出された提言と、定量アンケートで明らかになった県民・教育関係者のニーズ（休憩スペース・カフェ、体験スペース、常設展示、デジタル活用など）は、高い整合性を示しており、機能強化の方向性を強く裏付けるものとなっている。